



のびのび いきいき 生涯学習

生涯学習というと公民館などで行っている、各種教室や講座のことと

受け取られがちですが、そのみではなく、人間生活における様々な課題

を学び、その成果をまちづくりに生かすことといわれています。

都留市においても、環境、福祉、健康、産業、学びの五つの柱による、協働のまちづくり(生涯学習のまちづくり)の実践を行っています。今回は、産業のまちづくりの一つである林業について、農林漁業体験ガイドより紹介します。

【林業体験を通して森林や環境問題について考える】

近年、地球の温暖化が進んでいます。その大きな原因の一つに森林の減少があげられます。温室効果ガスにはメタン、フロン、二酸化炭素などがありますが、なかでも二酸化炭素は地球温暖化の原因の6割を占めているといわれます。森林は空気中の二酸化炭素を取り入れて光合成に利用し、酸素を吐き出しています。二酸化炭素の吸収源としての森林が少なくなると地球上に二酸化炭素が増え、地球温暖化が進みます。

林業とは、法律や森林を守る制度などによって森林の木を切って、暮らしに役立つ木材を生産し、伐採した跡地には苗木を植えるなどして林を育て、森林に再生するという循環システムを利用した産業です。

○水源涵養に役立つ

緑のダムといわれるように森林のスポンジ状の土壌は雨水を地中に浸透させ蓄えます。蓄えられた水は長い時間をかけて流れだし川の水源となります。

○水を浄化する

雨水に取り込まれた塵やチツソ、リンなどは水が森林の土壌の中を流れる間に濾過されてきれいな水になります。

○土砂の流出を防ぐ

森林に降った雨は木の葉や枝、下草などにあたり直接地表に落ちてきません。そのため地表の土砂が流されることがありません。これを森林の土砂流出防止機能といえます。

○林業で行われる作業

では、林業で行われる作業にはどんなものがあるでしょう。林業の仕事には、木を植えて育てる。木の伐採、伐採した木材の運搬などがあります。森の手入れでは、植えた木の周りの草刈りをする下草刈り、雪の重みで倒れた木を起こす雪起こし、良材をつくるために下枝を切る枝打ち、木の生長をよくするための間伐という仕事をしています。

間伐は植林した木が成長してくるに当たって過密になった森林を適当な密度にするために抜き伐りする作業です。間伐を行わないと、木が太れず、もやし状の木ばかりの森林になって風害や雪害などの被害を受けやすく、また低木などの下層植生がなくなると、森林の水源涵養機能や土砂流出防止機能が失われてしまいます。

【森林浴の効用】

昔から森林は、疲れを癒し心身をリフレッシュさせる場所として利用されてきました。森の中を歩くと自然の懐に抱かれている気持ちになって身も心もリラックスします。森林の中に入ると軽く汗をかいた体をひんやりと包み込む森の冷気を感じます。やがて周りにさわやかな空気が広がり、微かな香りがしてきます。この香りの正体がフィトンチッドと呼ばれるものです。

フィトンチッドは樹木が発散するテルペン類を主成分とする揮発性物質で、この揮散している状態のフィトンチッドを浴びることを「森林浴」といっています。

フィトンチッドは樹木が病虫害を防ぐために発散する物質で抗菌作用や精神安定作用があり、森の澄んだ空気もフィトンチッド効果によるところが多いことが知られています。



森の中に入って、心身がリラックスするのは何もフィトンチッド効果ばかりではありません。樹木の葉の緑は目に優しく、心身を癒す効果があるとされています。色彩の心理学でも、緑色が疲れをとり、気分を安定させ、生きる力を回復させてくれる色であることを明らかにしています。さらに、木洩れ日が柔らかく地上に注ぎ、風の軽やかな音が野鳥のさえずりとともに聞こえてくる環境に身を置くと、すべてがのびやかに感じます。

新緑の美しい時期に、山菜採りがてら「森林浴」を楽しんでみてはいかがでしょうか。